

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2016年8月10日

【四半期会計期間】 第113期第1四半期(自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)

【会社名】 ニチバン株式会社

【英訳名】 NICHIBAN CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 堀田直人

【本店の所在の場所】 東京都文京区関口二丁目3番3号

【電話番号】 (03)5978 - 5601(代表)

【事務連絡者氏名】 上席執行役員 管理本部長 高橋泰彦

【最寄りの連絡場所】 東京都文京区関口二丁目3番3号

【電話番号】 (03)5978 - 5601(代表)

【事務連絡者氏名】 上席執行役員 管理本部長 高橋泰彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第112期 第1四半期 連結累計期間	第113期 第1四半期 連結累計期間	第112期
会計期間		自 2015年4月1日 至 2015年6月30日	自 2016年4月1日 至 2016年6月30日	自 2015年4月1日 至 2016年3月31日
売上高	(百万円)	9,755	10,422	42,461
経常利益	(百万円)	656	995	3,490
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	393	799	1,827
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	462	732	1,586
純資産額	(百万円)	27,016	28,416	28,140
総資産額	(百万円)	48,614	53,907	52,890
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	9.48	19.29	44.09
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	55.6	52.7	53.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,389	1,089	4,406
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	262	633	1,963
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	364	504	589
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	11,727	12,732	12,802

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続くものの、個人消費の低迷、英国のEU離脱を起因とした円高進行、株価下落、欧州政情を始めとする海外情勢不安により、先行きの不透明感が高まりました。

このような経済情勢のなか、当社グループは中長期経営計画「NB100」の最終3ヵ年計画「Stage3」の初年度として、「顧客を基軸とした積極的拡大施策と新たな価値創造による事業成長戦略の遂行」、「連結売上高500億にむけたグループ最適生産体制の構築」、「企業品質の確立に向けて、世界に通用する人財育成とグループ全体の品質向上」及び「コーポレート・ガバナンスの強化」に取り組んでまいりました。

その結果、売上高は104億2千2百万円（前年同期比6.8%増）、経常利益は9億9千5百万円（前年同期比51.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は7億9千9百万円（前年同期比103.4%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

メディカル事業本部

(ヘルスケアフィールド)

ドラッグストアを中心とした大衆薬市場におきましては、大手ドラッグチェーンの業務提携化や、一部医薬品や商品の小売価格競争が続き、依然として厳しい販売環境ではありましたが、鎮痛消炎剤「ロイヒツぼ膏TM」は、訪日外国人観光客の購買は衰えずに、販売伸張は依然として継続し、製品シリーズ展開の効果とも併せ、売上は非常に好調に推移いたしました。また、高機能救急絆創膏「ケアリーヴTM」は、前連結会計年度に製品シリーズに加えました「ケアリーヴTM治す力TM防水タイプ」も販売実績を拡大して、売上は好調に推移いたしました。

(医療材フィールド)

医療機関向け医療材料市場におきましては、医療費削減の傾向が続くなか、衛生材消耗品に対するコスト要求が強まり、厳しい販売環境ではありましたが、医療現場のニーズを取り入れて製品化いたしました、極低刺激性サージカルテープ「スキナゲートTMスパット」、フィルムドレッシング材「カテリープラスTM」の販売に注力するとともに、前連結会計年度より、手術の傷あとケアテープ「アトファインTM」を発売し、売上は順調に推移いたしました。

以上の結果、ヘルスケアフィールドと医療材フィールドを合わせましたメディカル事業本部全体の売上高は44億8千2百万円（前年同期比19.3%増）、営業利益は12億9千万円（前年同期比44.7%増）となりました。

テープ事業本部

(オフィスホームフィールド)

文具事務用品市場におきましては、官公庁及びオフィスでの需要の縮小傾向が続き、個人消費も伸び悩んでいるため、依然として厳しい販売環境となりました。このような状況のなか、既存製品の販売活動と合わせ、パーソナル向け製品「ディアキチTMワザアリTMテープ」、「プチジョアTM」のシリーズを拡大展開いたしました。また、セロテープ[®]他製品の販売が一部持ち直しを見せ、売上は堅調な推移となりました。

(工業品フィールド)

産業用テープ市場におきましては、国内需要全体としては緩やかに回復を続けてはおりますが、国際経済情勢への不安による設備投資の足踏みや、一部輸出産業の弱含みによって、工業製品の部材、包装資材としての粘着テープ製品の販売は伸び悩みました。このような状況のなかでしたが、「たばねらTMテープ」など食品包装用テープ製品は回復を見せました。また、工業品フィールドの主力製品であります「ゼロテープ[®]」は、収益基盤構築のための販売戦略を強く推し進めた結果、売上は堅調に推移いたしました。また、利益性改善を目的とした生産設備投資の効果と製品戦略、販売戦略の結果として、フィールドの営業利益は増加いたしました。

以上の結果、オフィスホームフィールドと工業品フィールドを合わせましたテープ事業本部全体の売上高は59億4千万円（前年同期比1.0%減）、営業利益は4億4千1百万円（前年同期比4.9%増）となりました。

また、海外事業におきましては、タイ・バンコク駐在員事務所を基点として、各国へのマーケティング活動を継続し、海外需要に対応した製品開発を進めるとともに、高機能救急絆創膏「ケアリーヴTM」などのメディカル事業製品と、塗装用和紙マスキングテープなどのテープ事業製品を、各国の展示会や商談会などにも出展し、販売チャネルの構築と売上拡大を進めております。

(注) 事業の状況(キャッシュ・フローの状況を除く)に記載しております金額には消費税等が含まれておりません。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ10億1千7百万円増加し、539億7百万円となりました。また純資産は2億7千6百万円増加し、284億1千6百万円となりました。この結果、自己資本比率は52.7%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ6千9百万円（0.5%）減少し、127億3千2百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、前第1四半期連結累計期間に比べ3億円（21.6%）減少し、10億8千9百万円となりました。これは主に法人税等の支払額が増加したことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、前第1四半期連結累計期間に比べ3億7千1百万円（141.6%）増加し、6億3千3百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が増加したことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、前第1四半期連結累計期間に比べ1億3千9百万円（38.4%）増加し、5億4百万円となりました。これは主に配当金の支払が増加したことによるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、2億5千7百万円であります。なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第1四半期連結累計期間における国内経済は、緩やかな回復基調で推移したものの、依然として個人消費の低迷、円高進行、株価下落、不安定な国際情勢が続く、先行きは不透明であります。

このような状況のなか、当社グループは、2018年に迎える「創業100周年」に向けた中長期経営計画「NB100」の戦略フレームに基づき、施策を確実に実行してまいります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	140,000,000
計	140,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2016年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2016年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	41,476,012	41,476,012	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	41,476,012	41,476,012		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2016年4月1日～ 2016年6月30日		41,476,012		5,451		4,186

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2016年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2016年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 27,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 41,396,000	41,396	
単元未満株式	普通株式 53,012		
発行済株式総数	41,476,012		
総株主の議決権		41,396	

【自己株式等】

2016年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ニチバン株式会社	東京都文京区関口二丁目 3番3号	27,000		27,000	0.1
計		27,000		27,000	0.1

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2016年4月1日から2016年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2016年4月1日から2016年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、清明監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2016年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,580	12,511
受取手形及び売掛金	13,773	13,211
有価証券	908	907
商品及び製品	3,087	3,606
仕掛品	1,532	1,504
原材料及び貯蔵品	1,420	1,485
その他	992	1,006
貸倒引当金	2	2
流動資産合計	34,293	34,230
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,024	4,954
機械装置及び運搬具（純額）	6,060	6,018
その他（純額）	3,542	4,906
有形固定資産合計	14,627	15,880
無形固定資産	276	267
投資その他の資産	3,693	3,530
固定資産合計	18,597	19,677
資産合計	52,890	53,907
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,343	4,178
電子記録債務	5,258	5,697
未払法人税等	989	392
賞与引当金	-	574
役員賞与引当金	66	61
環境対策引当金	25	7
固定資産撤去費用引当金	25	-
その他	5,423	5,979
流動負債合計	16,133	16,891
固定負債		
長期借入金	2,000	2,000
役員退職慰労引当金	64	59
退職給付に係る負債	2,936	2,987
長期預り保証金	3,147	3,114
資産除去債務	81	81
その他	387	356
固定負債合計	8,617	8,599
負債合計	24,750	25,491

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2016年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,451	5,451
資本剰余金	4,186	4,186
利益剰余金	18,167	18,511
自己株式	9	10
株主資本合計	27,796	28,139
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	181	154
為替換算調整勘定	56	92
退職給付に係る調整累計額	218	215
その他の包括利益累計額合計	343	276
純資産合計	28,140	28,416
負債純資産合計	52,890	53,907

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)
売上高	9,755	10,422
売上原価	6,762	7,035
売上総利益	2,993	3,387
販売費及び一般管理費	2,348	2,409
営業利益	644	977
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	6	6
持分法による投資利益	45	51
その他	17	16
営業外収益合計	69	75
営業外費用		
支払利息	11	12
支払手数料	31	-
為替差損	-	26
外国源泉税	11	14
その他	3	4
営業外費用合計	57	57
経常利益	656	995
特別利益		
固定資産売却益	-	173
受取保険金	-	5
特別利益合計	-	179
特別損失		
固定資産除売却損	41	15
特別損失合計	41	15
税金等調整前四半期純利益	615	1,159
法人税等	222	360
四半期純利益	393	799
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	393	799

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)
四半期純利益	393	799
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	56	26
退職給付に係る調整額	8	3
持分法適用会社に対する持分相当額	4	36
その他の包括利益合計	69	66
四半期包括利益	462	732
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	462	732
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自2015年4月1日 至2015年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2016年4月1日 至2016年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	615	1,159
減価償却費	358	438
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	6
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	4	4
環境対策引当金の増減額(は減少)	-	18
固定資産撤去費用引当金の増減額(は減少)	-	25
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	57	46
受取利息及び受取配当金	6	6
支払利息	11	12
固定資産除売却損益(は益)	41	158
受取保険金	-	5
売上債権の増減額(は増加)	846	561
たな卸資産の増減額(は増加)	405	555
仕入債務の増減額(は減少)	44	274
その他	141	269
小計	1,702	1,981
利息及び配当金の受取額	6	6
利息の支払額	16	16
保険金の受取額	-	5
法人税等の支払額	302	887
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,389	1,089
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	15	15
定期預金の払戻による収入	15	15
有形固定資産の取得による支出	224	998
有形固定資産の売却による収入	-	420
有形固定資産の除却による支出	34	8
無形固定資産の取得による支出	-	46
その他	2	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	262	633
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	50	-
配当金の支払額	331	455
その他	82	48
財務活動によるキャッシュ・フロー	364	504
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	21
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	768	69
現金及び現金同等物の期首残高	10,959	12,802
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,727	12,732

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 2016年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2016年6月30日)
投資その他の資産	6百万円	百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)
現金及び預金勘定	11,506百万円	12,511百万円
有価証券勘定	507	907
預入期間が3か月を超える定期預金	285	285
償還期間が3か月を超える債券	-	399
現金及び現金同等物	11,727	12,732

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2015年6月26日 定時株主総会	普通株式	331	8	2015年3月31日	2015年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2016年6月28日 定時株主総会	普通株式	455	11	2016年3月31日	2016年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	メディカル 事業本部 (百万円)	テープ 事業本部 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	3,756	5,998	9,755		9,755
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	21	12	33	33	
計	3,777	6,011	9,788	33	9,755
セグメント利益	891	421	1,312	667	644

(注) 1. セグメント利益の調整額667百万円には、セグメント間取引消去33百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用634百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	メディカル 事業本部 (百万円)	テープ 事業本部 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	4,482	5,940	10,422		10,422
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	22	13	36	36	
計	4,504	5,954	10,458	36	10,422
セグメント利益	1,290	441	1,731	754	977

(注) 1. セグメント利益の調整額754百万円には、セグメント間取引消去36百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用718百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	9円48銭	19円29銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	393	799
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	393	799
普通株式の期中平均株式数(千株)	41,450	41,448

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2016年8月10日

ニチバン株式会社
取締役会 御中

清明監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 今 村 敬 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 岩 間 昭 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているニチバン株式会社の2016年4月1日から2017年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(2016年4月1日から2016年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2016年4月1日から2016年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ニチバン株式会社及び連結子会社の2016年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。